

## トピックス

### ■RI法・色素法併用センチネルリンパ節生検の導入

以前は乳がんの手術時に腋窩リンパ節を郭清していました。現在、正診率の高いRI法を併用したセンチネルリンパ節生検を行い、センチネルリンパ節に転移が無ければ腋窩リンパ節郭清を省略しています。それにより、術後のリハビリが必要なくなり、また上腕浮腫を防ぐ事ができます。



# CLINICAL REPORT 2022

 関西医科大学総合医療センター  
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY MEDICAL CENTER

## 乳腺外科

教授

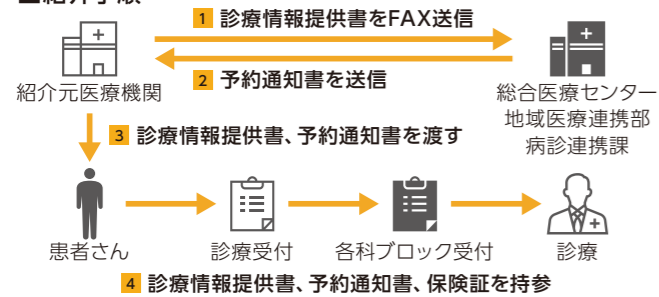
岸本 昌浩 乳腺

講師

矢内 洋次 乳腺

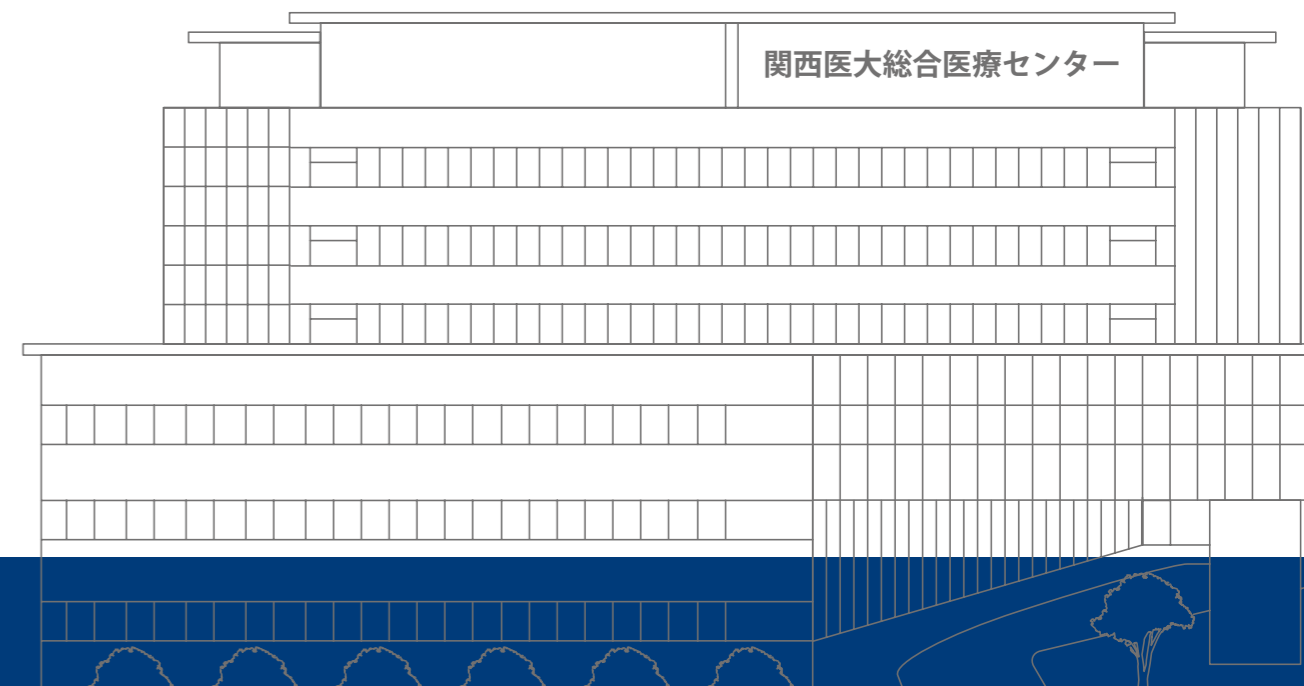
## 患者さんの紹介について

### ■紹介手順



- 1 診療情報提供書(紹介状)兼FAX紹介予約申込書にご記入いただき、【06-6993-9488】へ送信していただきます。
- 2 送信いただいた診療情報提供書(紹介状)兼FAX紹介予約申込書をもとに当院の患者IDを作成。予約をお取りして予約通知書をFAXいたします。
- 3 患者さんに診療情報提供書と予約通知書をお渡しください。
- 4 患者さんは診療情報提供書・予約通知書・保険証を持って、予約時間までに初診受付にお越しいただけます。

※診療科、診療日、医師の指定がある場合は、FAXにご記入ください。  
※用紙請求については当院ホームページよりダウンロードいただくか、下部の連絡先にご連絡いただけますようお願いいたします。  
※受付時間 平日 8:30~20:00/第1・3・5土曜日 8:30~13:00/第2・4土曜日 9:00~13:00



## 診療実績 (2021年度)

外来新患者数	348人	新転移性乳がん患者数	56件	乳がん手術数	71人
外来延患者数	6,257人	新再発乳がん患者数	10件	センチネルリンパ節生検数	55人
入院延患者数	1,187人			乳がん化学療法延患者数	763人
				乳がん検診受診者数	201人

## 診療アウトライン

当院の乳がん診療のモットーは「患者様の立場に立った医療の提供」です。早期乳がんはより小さく治し、進行乳がんであっても患者様が希望されれば、あきらめない医療の提供を目指します。また、化学療法が必要な場合には、頭皮の脱毛などの副作用を出来るだけ抑える方法も提案しています。

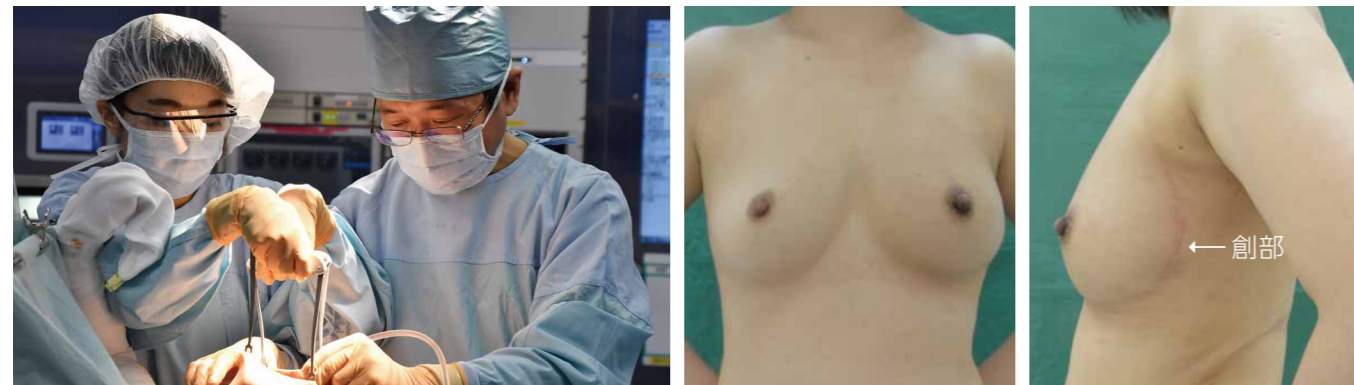
乳がんは早期発見であればあるほど、根治率は高くなります。よって、出来るだけ乳がんの早期発見に努めています。早期乳がんでは、乳房温存術や腋窩リンパ節郭清の省略を目指します。乳房全切除術が必要であっても、形成外科と連携し、乳房再建術など整容性を追及しています。

進行がん(切除不能・転移・再発乳がん)であっても、患者様が希望されれば、出来得る限り根治を目指します。

## トピックス

### ■転移・再発乳がんに対する無病状態(あるいは休眠状態)を目指した治療法の導入

転移・再発乳がんはほとんどが治らないとされています。しかし、治らない事を前提とした治療しか選択肢がないのはとてもつらい事です。私は患者様が希望されれば、無病状態(転移巣が検出されなくなる状態)を目指した治療を選択肢の一つとして提案しています。また無病状態に到達出来なくても、出来るだけ転移巣を縮小させた後に休眠状態(増殖を停止し眠った様な状態)を目指しています。その後は出来るだけ楽な治療に変更して、その状態を長く維持する事を目指します。これまでにおよそ90例の患者様に同治療を行い、40例以上で無病状態に到達しその状態を維持しています。



## トピックス

### ■局所進行(切除不能)乳がんの根治切除を目指した治療

局所進行(切除不能)乳がんは、出血や浸出液の漏出、悪臭、痛み等を生じ、生活の質を著しく低下させます。しかし、無理に切除しても多くで取り残しが生じ、早晚再燃してしまいます。よって、私は最初に出来るだけ縮小させ、根治切除可能な状態となった後に切除します。転移・再発乳がんでおかつ切除不能の場合には、転移巣が無病状態あるいはそれに近い状態となった後に切除します。これまでに30例以上で同治療を行い、90%以上で局所の完全寛解状態を長期維持しています。

### 右乳がん術後切除不能局所再々発症例

肺・胸膜・肝・骨・皮膚・対側乳房転移、両側鎖骨上・両側胸骨傍・縦隔・両側腋窩リンパ節転移再発



初診時局所所見 初診時PET検査 全身薬物治療後局所所見 根治切除術後局所所見 根治手術6ヶ月後 手術後PET検査

☆局所および遠隔臓器いずれにも再発兆候なし

### ■化学療法による脱毛予防および脱毛後の早期回復を目指した頭皮冷却装置の導入

化学療法を行う際に最も多くの方が苦痛に感じるのが脱毛です。治療後は髪の毛が生え始めますが、人によっては生えムラが生じ、何年もウィッグを外せない方もおられます。そこで私は、希望される方には脱毛予防のための頭皮冷却装置の併用を提案しています。化学療法をおこなう際に冷却液を循環させるキャップを被り、頭皮の温度を約19℃に冷却します。それにより化学療法による毛包へのダメージを抑え、脱毛を最小限に抑えます。たとえ脱毛しても、生えムラなく均一に早期の発毛が期待できます。

